

2023 年 3 月 吉日

第 48 回日本比較経営学会全国大会開催のご案内

第 48 回全国大会・実行委員長
夏目啓二

2023 年度の全国大会は、5 月 12 日（金）～14 日（日）の 3 日間にわたり、国立大学法人東海国立大学機構・岐阜大学地域科学部 H 棟で開催いたします。

3 年ぶりの対面方式（統一論題、会員総会、特別企画はハイブリッド併用）、懇親会開催のために、大会実行委員一同、準備取り組んでいる最中でございます。本大会の統一論題プログラムにおきましても、企画趣意書をご一読いただければお分かりになるかと存じますが、比較経営学の守備範囲の広さと多様性を反映したものとなっております。また、本年度の企画は統一論題 3 年連続計画の最終回として実施されるものです。中国とインドの企業経営の諸側面にフォーカスし、会員の皆様と議論して参りたく存じます。

今大会の参加お申し込みは別紙の QR コード参加受付フォームから 4 月 20 日（木）までにお願いします。懇親会に参加される会員におかれましては、会場予約の都合がございますので、大至急、ご返信くださいますようお願い申し上げます。

（従来の参加確認はがきは同封しておりません。デバイスをお持ちでない場合は大会開催校の小西豊までメール、電話で参加をお知らせくださっても結構です）。

また、ハイブリッド方式で実施するすべての ZOOM アドレスも別紙に記載してあるアドレスから入ってくださいますようお願いいたします。

コロナ感染政府規制の解除や 5 月 11 日（木）からの岐阜長良川鶺鴒開きと重なっており、岐阜市内のホテルの稼働率の上昇が予想されます。ホテルの予約などはお早めにお問い合わせいたします。

本件にかかわるお問い合わせは、大会事務局の小西豊（岐阜大学地域科学部）までお問い合わせいたします。

電話・FAX：058（293）3309<研究室直通>

E-mail：ykonishi@gifu-u.ac.jp

第 48 回日本比較経営学会全国大会

統一論題・企画趣意書

「新自由主義的経営実践のリセット—中国とインドの企業経営—」

第 48 回全国大会プログラム委員会

2010 年代からの世界は、われわれが予見できなかった「パンデミックと戦争の時代」に突入した。「パンデミックと戦争」は、われわれが所与としてきた経済のグローバリゼーション、グローバル・サプライ・チェーン、バリュー・チェーンに対する疑義を突き付けている。つまり、われわれは当たり前のように、「よそ者」とつながることで企業の競争力や国民所得の引き上げをおこなってきたのだが、米中貿易戦争では分断（デカップリング）現象が表出し、トランプ政権時代には中国 IT 企業に対する輸出規制という保護主義の台頭も記憶に新しいところである。これまでの新自由主義的経営実践がグローバル・リスクを内包しており、「パンデミックと戦争」はその見直しを迫っていることもまた事実である。

日本比較経営学会は設立以来一貫して、企業・経営システムを社会のあり方と関連づけて究明してきた。これまで、第 46 回大会（2021 年、立命館大学）では、株主資本主義批判を企業支配、投資ファンド、地域共同性を重視した経営、企業パーパス論の視点から分析した論文が公表された。続いて第 47 回大会（2022 年、新潟薬科大学）では、前年度の理論的構造的な分析を受けて、異なる価値・倫理・道徳、信頼・信認、社会性を内在化した企業・経営システムを中国 ICT 企業、イスラーム経営、日本のコーポレート・ガバナンス制度史、ロシア国家主導資本主義下の企業社会に関する論文が発表された。

本会では 3 年間ごとに統一論題の企画コンセプトを検討し、研究大会における議論の連続性を担保しうる課題設定を行ってきた。第 48 回大会（2023 年、岐阜大学）は、「ポスト株主資本主義の企業経営システム」を比較経営アプローチ（国別、産業別、セクター別、企業別）から展望する大会企画の最終年度となる。

第 48 回大会で改めて、「新自由主義的経営実践のリセット」の意味を以下のような観点から問い直したいと考えている。巨大コンサルティング会社 Price Waterhouse Coopers によると、世界の GDP に占める中国の割合は 2016 年の 18% から 2050 年には 20% へ増加、インドは 7% から 15% に急増し、世界経済に占めるインドのプレゼンスはますます大きくなることを予想している。今回は中国、インドの企業経営システムを比較検討することで、新興市場諸国の企業経営システムの光と影に焦点をあてることを試みたい。

具体的な企画内容としては、まずはマクロ的視点から中国国有企業改革の持続可能性を取り上げ、つぎにミクロ的視点から生産関係と労使関係の現場からの苦悩と工夫を考察する。さらに、インドの企業経営システムにフォーカスすることで、中印の比較企業経営分析を試みたい。最後に、米中貿易戦争やロシア・ウクライナ戦争後の国際情勢をも視野に入れて、世界経済のなかで中国の企業経営システムがどこへ向かっているのかを展望できるような企画にしたいと考えている。

【参加申込用のフォーム】



<https://forms.gle/yGmfzxfZ9AoYiwgH8> (この URL からアクセスできます)

【Zoom 情報】

(1 頁に記載の大会事務局にお問い合わせください)

5月12日(金) 14時～17時30分

(学会誌編集委員会および理事会)

5月13日(土) 11時～18時

(開会式、統一論題シンポジウム、会員総会)

5月14日(日) 10時～14時30分

(ワークショップ、理事長講演、新旧合同理事会、特別企画)